



# 慶熙大学 韓医学研修 2014



2014年11月1日～3日の文化の日の連休を利用し、今年で第3回となる慶熙大学韓医学研修が行われました。日本からは今年は2名の医学生が参加しました。昨年の開催期間と異なり、各大学が文化祭開催と日程が重なってしまったため日本からの参加者は少ない形となってしまいましたが、その分日韓の学生の交流は深くなったと感じられる充実した3日間となりました。



サンファン参鸡汤



市川先生の講義風景



ドラマの撮影にも使われる平和の殿堂



韓医学生たちとの交流のひとつ

市川先生の講義で  
使われたテキスト

## 研修1日目～2日目 韓医学生との交流

東京女子医科大学 李殷先

1日目の刻より研修プログラムは開始となりました。慶熙大学の生徒と顔合わせを兼ねた食事会を行いました。明洞の高峰参鸡汤にてサンファン参鸡汤をいただきました。私自身今回の研修に参加する以前より、ソウルには何度も足を運んだことがあったため、参鸡汤を食べたことも何度もありました。しかしそれでもサンファン参鸡汤というタイプの参鸡汤は今まで聞いたことのない新しい参鸡汤でした。薬膳として食べられている料理であるため、韓医学の国だからこそ、この

ようにアレンジを加えた料理にも変貌するのだと知り、初日の夕飯から韓医学を学びに来たことを実感でき胸が高鳴る気持ちになりました。

慶熙大学の韓医学科の学生は日本語ができるとは何っていましたが、驚くほどの実力を持っていて思わず耳を疑いました。留学をしていたことがあるのかと聞くと、ただ日本の漫画やアニメを理解したいと思い勉強しただけだと言うので、一つのことに集中する気持ちと熱意に大変驚きました。自分も海外ドラマに熱中したら英語が話せるようになるのかしら…と想像してみましたが、ちょっと無理そうだなあと感じてしまいました。



2日目は市川先生より講義があり、代表的日本人、代表的韓国人や医のアートについての講義を受けました。教科書的な観点から、文化、芸能に至るまでさまざまな視点で両国について考えるのはとても興味深く、一番近い外国としてより韓国と日本が近づいた関係になってほしいと国交にまで考えは膨らんでいきました。

授業に集中したあとは学生みなでキャンパス内を見学しました。西洋風の雰囲気や醸し出している図書館や平和の殿堂などは韓国ドラマやコンサートなど撮影でも多く利用されるようで、歴史ある風格が随所に感じられました。歩きながら、慶熙大学の学生に「春はここでサークルの新歓イベントを行っていたんだ」などといった学生生活のエピソードをたくさん聞くことができました。それまでの会話からは日本の医学生に比べて韓国は本当に寝る間も惜しんで勉強をしているという印象があったため、自分たちの学生生活と同じようなエピソードを聞くことができほっとすると同時に、学生同士の距離がまた近づいた瞬間であったなと思いました。

午後は引き続き市川先生の講義をうけました。韓国のマッ(味)とモッ(粋)についての講義は特に韓国文化の考え方をとてもよく表していると感じ印象に残っています。

夜の懇親会では会場を移し皆で美味しい韓国料理とお酒を飲みながら、交流を深めました。懇親会会場に



クイズ王として表彰される

て講義中に行われていたクイズ王決定戦とチュートリアル発表の優秀者に賞状と市川先生の情熱がこもったオリジナルTシャツをいただきました。韓医学に重要な考え方である五行がデザインされているものとマッ(味)とモッ(粋)がデザインされているTシャツでした。生活に韓医学の考えが浸透している韓国文化をよく表しており、今回の研修にふさわしいデザインで素敵な研修の思い出になったと思いました。

### 研修3日目 韓医学を体験

東京女子医科大学 長谷川悠子

最終日は、日本チームだけで慶熙大学病院で研修を行った。慶熙大学は西洋医学と東洋医学で病院の棟が分かれていて、東洋医学では韓国一の病院だそう。

まず、韓方の調室の見学をした。独特な匂いが漂う部屋の中には、韓国ドラマ「チャングムの誓い」で見覚えがあるような、韓方薬の名前が書かれた木の戸棚が天井まで壁を覆い尽くしていた。医師の処方通りの



病院研修を終えて

韓方薬を薬材師が材料から調合し、1人分ずつ専用の窯で数時間煮込み1回分ずつ小分けのパックにして患者に手渡されるという。まさにオーダーメイド治療である。

東洋医学は世界から注目を受けており、海外からの患者さんも多いそうで英語やロシア語で診察を受けられる施設もあった。

また、実際に鍼やお灸の体験もさせて頂いた。顔に鍼を打った患者さんは見るだけでも痛々しいが、実際にやってみると見た目ほどの痛みはなかった。お灸は、暖かく二人とも爆睡してしまうほどの気持ち良さだった。午後は神経症状を改善する治療を見学した。検査や画像なしには診断できない西洋医学に比べて、患者さんの脈を診るだけで体質を知ることができ、レントゲンなしに背骨の曲り具合を触るだけで分かる韓方医はより“医者”らしいと感じた。韓方医学というと、体の内側から韓方薬で体質を変える治療を行うイメージであったが、曲がった背骨に対してトンカチのようなもので叩いたり、足を強く引っ張ったりなどの激しい治療も行っていた。

この研修を通じて、鍼やお灸の効用や、がんや神経疾患にも韓方が効くなど、今まで知らなかった東洋医学の素晴らしさを学ぶことができた。日本では西洋医学を重要視しがちだが、どちらが優れているかは決められないと思う。この病院では、東洋医学と西洋医学の医師が2人で1人の患者を同時に診察する合同診療も行っていると知り、このようにそれぞれの長所を生かして治療を行えばより治療の幅も広がると思った。

3日間という短い期間であったが、東洋医学という異なった断面から学ぶことができ、実りある経験となった。

### 交流会に参加して

慶熙大学韓医学部 金定賢

日韓韓医学交流会は去年に続く2年連続の参加です。去年とても楽しい思い出を作れたので、今年もまた参加しました。韓国から3名、日本から2名が参加し、

去年より規模は小さくなったのですが、もっと深い交流が出来たのではないかと考えています。市川先生の講義は日韓両国の共通点に気づき、医者としての心得を持つにあたって非常に勉強になりました。特に数学の図形の内容はとても興味深かったです。

日本の友達に会ったら韓医学の多様な長所について沢山話そうと思っていました。韓医学に興味を持ってきて色々質問もしてくれる彼女らに私も一生懸命説明をしました。交流会が終わってからも一緒に食事をしながら韓国や日本の文化、各国の医学界の現状などについて色々話をしましたが、時間がものすごく早く経ってしまって、1日では短いと改めて感じました。

来年は交流できる時間を2日に増やして、1日は既存の交流スケジュールを、1日は韓医学の基本内容の講義と韓国の学生が韓医学関連資料などを纏めて紹介できる時間があればよいと思います。それなら日本から来てくれた医学を専攻する学生たちも韓医学の全般的概念をもっと良く理解することが出来、韓医学に深い興味を持ってくれると思います。来年も機会があればぜひ参加したいと思いますし、今後も多くの日本医学生の友達と韓医学について交流し、語り合いたいと思います。



チュートリアル優秀者として表彰される